ふみびと

第３８１号
発行所
文通村事務局
編集　広報部
千葉県成田市

変わらぬ日々に ふと変化を

冬のかけら

秋を飛び越えて一気に冬になってきたような寒さ。昔は秋の趣きをゆっくりと感じながら冬を迎えていたように思いますが、今はそんなセンチメンタルな気分を味わう暇もなく、気がつけば冬が訪れているような気がします。

昔から冬の寒さは大の苦手。理科の授業で、暖かい空気は上空に行ってしまうと習ったときに絶望感を覚えたことを今でも思い出します。

当時通っていた小学校はなぜか長袖の体操服を着る習慣がなく、冬でも半袖短パン。今では考えられないことですが、耐え難い寒さに耐えながら体育の授業を受けていたものです。

そんな中でも不思議と冬を楽しんでいた小学生時代。寒さを忘れるように思いっきり体を動かして、授業の後でストーブで暖をとってささやかな幸せを感じるのが子どもなりの冬の楽しみ方だったような気がします。

大人になってくると、いつしか暑さも寒さもできるだけ感じないように工夫して過ごすようになるけれど、子どもの頃のように「感じる」ことでその季節を楽しむことも、四季の趣きとともに過ごす暮らしになるのかもしれません。

かじかむ手をギュッと握りながら走ったマラソン大会の後に食べた豚汁の温かさや、寒空の下、震えながら眺めたオリオン座の美しさはきっと冬の寒さがあったからこそ、今でも思い出として強く心に刻まれているように思います。

これからしばらく続く長く厳しい冬の寒さ。いつもというのは難しいけれど、時々はそんな寒さに季節の趣きを感じたいものです。

ふと思い出す子どもの頃の冬の思い出のかけら。それをたまに拾えるような気がするから。

通勤革命

「通勤革命って、知ってるか？」兄のその言葉から「帰宅ラン」を知った。具体的には、いつもの電車通勤の帰り道を「走る」に変えるだけのようだ。でも、ただそれだけのことなのに、なぜだか胸が高鳴った。久しぶりのワクワクする感覚。翌日、いつもより荷物を少なくして仕事へ。仕事が終わった帰り道、一駅手前で電車を降りて着替えた後、見慣れた街を走ってみる。夕暮れの風が頬をかすめ、角を曲がるたびに初めての景色が現れ、自分だけの小さな冒険が始まったような気がした。

昔は何かを始めるときに胸が躍る瞬間が数多くあったが、最近はそういう瞬間が少なくなっていることに走りながら気づく。通勤という「いつも」に、小さな「非日常」をすべり込ませるだけで、こんなにも心が動くのだ。帰宅ラン、それは思いがけず知った、発想の転換による通勤の革命だった。

風に揺られて誰かに届け 風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。

誰に届くかは風次第…。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。あとは、事務局宛の返信用封筒に同封下さい。今までにない交流の始まりです。

次回発送日

次回発送日は11月25日の予定です。送りたいお手紙がある場合は21日までに事務局に到着することをお近くの郵便局で確認の上、ポストに投函して下さい。これは発送に間に合わせるための一つの目安ですので、ご自身のペースを大切にしてください。

感想・体験談

皆さんのお声をウェブ上で掲載させて下さい。方法は事務局宛てのメモや便せん、何でも有り難いです。頂いたメッセージは個人情報を伏せた上でご紹介させて頂きます。